# 弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

看護学部・看護学科
村岡　祐介

作成日　2024年1月28日

## 1. 教育の責務

2018年（平成30年）度から弘前学院大学看護学部に採用され、本年2023年で6年となる。看護学分野で主として成人看護学領域を中心として、講義や実習科目を担当している。学生に、看護の理解、実践力の向上を意識して教育を行っている。

その他、地域活性化サークルの顧問として学生と一緒にコンソーシアム事業への採択や地域課題、学生の要望等にサークルを通して取り組んでいる。コンソーシアム事業は2022年から2年連続で採択されている。

2023年度担当授業

| 科目名 | 学年 | 授業種別 | 開講学期 | 概要 |
|---|---|---|---|---|
| 成人看護学実習Ⅱ | 3～4年 | 実習 | 通年 | 急性期看護 |
| 成人看護学Ⅲ | 2年 | 講義 | 後期 | 急性期看護（一部担当） |
| 成人看護学Ⅳ | 3年 | 講義 | 前期 | 急性期看護 |
| プライマリーヘルスケア実習Ⅰ | 1年 | 実習 | 前期 | 患者会を通して病気をもって生活している人を学ぶ |
| 統合実習 | 4年 | 実習 | 前期 | 臨床に向けた実践的な看護学実習 |
| 基礎看護学実習Ⅱ | 2年 | 実習 | 前期 | 看護過程の実践 |
| 基礎看護学実習Ⅰ | 1年 | 実習 | 後期 | コミュニケーションと見学 |

## 2. 教育の理念

私が教員として意識していることは2点あり、一つは学生の目線を大事にすること、もう一つは学生との信頼関係を構築することである。教員は教えることだけにこだわりすぎると知識をただ伝えるだけになってしまう。看護の知識を知るだけであれば教科書を見れば分かる。どのように教えるかが重要であり、そのためには学生がどう感じるかという学生の目線が大事だと考えている。さらに、信頼完成を構築することで何が分かりにくいのか、何に困っているのかを学生が表出しやすくなると考えている。

１．講義科目の場合

成人看護学関連は範囲が広く、分かりにくい。できるだけ要点をまとめ、臨床経験を活かし、学生が分かりやすい内容と要点を伝えるように努めている

２．実習科目の場合

特に実習先においては、学生は看護師や病院の環境に緊張している。その中で更に教員が話しにくい存在であれば、実習が苦痛だったという意識だけで終わってしまう。学生が疑問を解決しやすい環境を整えることも重要である。大変な中に少しでも成功した体験や楽しかったと思えることで、将来看護師を目指す意欲にもつながり、後々でもこの学校を卒業して良かったと思ってもらえるのではないかと考えて接している。

## 3. 教育の方法

１．講義科目の場合

私の担当は、胃がんと急性期で使用される物品（輸血、人工呼吸器など）に関連した内容と、股関節疾患をメインにして、講義のほかに実際に車いすやベッドを使用して演習を行っている。胃がんの一般的な手術前後についての講義を通して学生が実習や臨床で使用する内容を説明している。また、国家試験に関連した内容も同時に説明している。実際の物品を見せ、触ることをできるだけ行っている。説明時には風船を使用して肺にみたてて説明するなどイメージできるようにしている。演習では実際の療養環境を意識して行っている。

以前のFD研修会で「学生の集中力は６０分も持たない。授業の合間にクラシックをかける」と話していた先生がおり、授業の途中で映像や音楽等も使用して、途中で学生の気分転換を図ることも心掛けている。

２．実習科目の場合

学生が実習の目標を設定し、日々の動き方や目標等を設定する。それを元に看護師に報告することから始まるが、そこからつまずく学生も少なくない。学生が何を言いたいのかを細かく聞き取り、看護師に伝える時や患者に伝える時にスムーズに伝えられるように指導と助言を行っている。

また、看護教員は患者のロールモデルにもなり得るため、必要時は学生に手本を見せることも必要であり、各種の技術や知識を常に教えられるように関わっている。

## 4. 教育の成果

評価について

1. 学生評価において、「成人看護学Ⅳ」では半分を担当しているが、「教員は熱意をもって授業に臨んでいる」という項目は4.0と高い。その他の項目も「シラバスに記載された到達目標を達成できると思う」が3.4で学部平均値以下であったが、他は全て平均値以上である。
2. 同様に「成人看護学実習Ⅱ」でもすべての項目で平均値以上であり、一番低い項目が「シラバスに記されている到達目標や評価方法を読んで知っている」の3.4であるが、「総合的に見て、この授業に満足している」が3.9であり、他の項目も全て学部平均値より高い。

実習においては、最終日の面接の際に学生から実習の感想を聞いているが「保健師だけを考えていたが初めて看護師になろうと思えた。」「また実習に行きたいと思えた」「楽しかった」など、大変と思われる実習の中でもプラスな意見をもらうことは多く、実習での指導や関わりの成果ともいえる。

## 5. 教育の改善

成人看護学実習Ⅱ、成人看護学Ⅲ、成人看護学Ⅳそれぞれにおいて、「シラバスに記されている到達目標や評価方法を読んで知っている」、または「シラバスに記載された到達目標を達成できると思う」という項目が平均値より低いものもある。授業や実習においてシラバスの説明が不十分とも考えられる。学生にシラバスの目標なども適切に説明していくことも必要である。

また、成人看護学Ⅲでは、授業の事前学習や事後学習の項目も平均値以下である。授業内でできるだけ学習をすすめられるような配慮をしており、事前や事後の学習をあまり与えていないためかもしれないが、授業に臨むにあたって事前学習などを行えるような環境も整えていく必要がある。

## 6. 教育の目標

在学中においては、病院での実習を常に意識して、実習で記載する記録物や患者・看護師とのかかわり方、どのような合併症が起こるのか、といった必須の項目を中心に講義や実習では指導・助言を行っていく。

卒業後にむけて、看護学生の大半が病院で働く可能性が高いため、臨床に出た時に使用するような一般的な単語、看護技術、患者との接し方、看護師としての考え方など臨床経験を元に教えていくことが重要である。

これらを理解できるように、学生に丁寧に教えていくことを目標としている。

**【資料】**

1. シラバス
2. 授業評価アンケート
3. 学生提出の課題レポート